

新年おめでとうございます

新年早々19世紀に逆戻りするような事件が勃発しました。国連憲章と国際法に違反するトランプ大統領のベネズエラ侵略。こともあろうに一国の大統領を拘束して米国に移送。ベネズエラ国民100人も殺害されています。トランプ氏は「米国がベネズエラを運営する」と表明し、ベネズエラの石油権益を米石油大手企業が掌握する方針も打ち出しています。まさに植民地支配そのものです。こうしたトランプ氏の蛮行に高市首相は、日頃は「法の支配」に基づきと言っていますが、批判していません。アメリカはベネズエラへの蛮行と植民地地位支配をやめろ！日本政府は米国言いなりの軍拡をやめ、平和と憲法に基づく外交をすすめよと、ともに声をあげていこうではありませんか。

今年も平和のうちにくらせるよう大きく共同を広げていきましょう。

足立市民連合 高市政権に、近藤区政に、もの申す 共産・沢田 13 区前回衆院選候補、立民・木村 29 区衆院選 立候補予定候補らリレートーク

12月27日、2時、西新井アリオ前で、「高市政権に、近藤区政に、もの申す！ リレートーク」をテーマに市民連合あだち主催で街頭活動をおこないました。

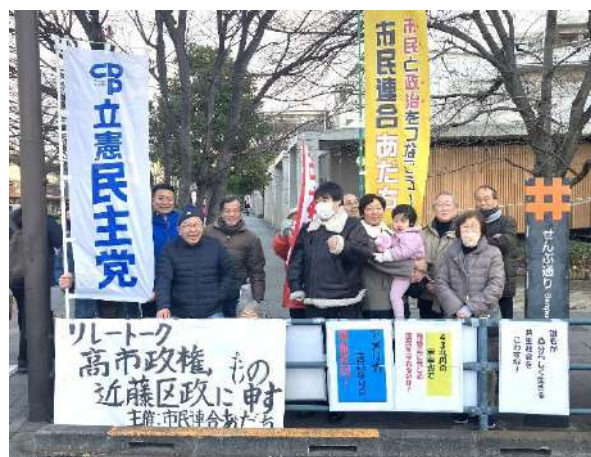
臨時国会が閉じて議会の声が届かない間に、高市政権下では、来年度予算案が閣議決定され防衛費が9兆円を超え、その財源として27年1月からは所得税の増税も行われることが決められています。審議も行われない中、既成事実化が進むことに一歩でも歯止めをかけることをねらいとして急遽街頭活動を行いました。急な呼びかけにもかかわらず、各党から、また区議会議員も駆けつけてスピーチをしてもらいました。

国政については、まずは暮らしを守る政策を優先して実行すること、消費税の食料品についてゼロにすることや、中国に対する高市政権の強硬姿勢の見直しなどの主張がありました。区政については、再開発優先の事業については、物価高騰の中、事業がとん挫している例もありながらこの事業を優先する近藤区政の問題点を指摘、その他ガザの問題を取り上げて映画会を開催して区民へのアピールに取り組んでいることなどを紹介してもらいました。その他に市民運動をされている方からは、鈴木賢市さん（生活と健康を守る会）が「生きがい奨励金を復活してください、署名が2万2千を越えました」という報告や橋本敏明さん（学校統廃合を考える会）からは淵江中と竹ノ塚中の統廃合をしないでくださいという訴えがされました。このことを呼びかけるチラシはとても受け取りが良く区民へも浸透していったのではないのでしょうか。このように国政と地域での活動を同時に話題としてとりあげ、政治が私たちの身近なことに関わっていることを呼びかける街頭活動とすることが出来たのではないのでしょうか。スピーチは、沢田しんご（共産党・13区前回の総選挙立候補者）、木村たけつかさん（立憲民主・29区立候補予定者）、額賀和子（共産足立区議）、土屋のりこ（足立区議）、鈴木賢市（生活と健康を守る会）、橋本敏明（学校統廃合を考える会）、大滝慶司（足立区労連）、吉田万三の各氏が行いました。（小野）

足立 たすけあいの輪 希望のひろばに 300 人

12月30日、花畑公園で開催された食料支援となんでも相談の「年越し・希望のひろば」に300人を超える方が来場されました。

コロナ禍以降7回にわたって開催されてきた「足立たすけあい村」の取り



組みを引き継ぎ、社保協やくらしと営業を守る足立連絡会などに参加する団体でつくる実行委員会が主催したもの。

開始1時間前から長い列ができ、多くの方からの寄せられたカンパ物資をはじめ、大量に準備した野菜やお米、レトルト食品、カップ麺、日用品などが、ほぼ1時間で大方なくなっていました。

千住からバスを乗り継いで来たという女性は「物価高で生活が大変。食料支援は本当に助かる」。外国籍の男性は「野菜が高くて困っていた。久しぶりに野菜をたっぷり食べられる」と喜んでいました。「食事を1日2回に減らしていたが、これで少し食べつなげる」という方も。年金暮らしの高齢者からは「年金だけでは食べていけない」という声が多く寄せられました。

なんでも相談会には、認知症の家族を抱える方からの生活・介護の相談や、生活が苦しく都営住宅に入居できないか、などの相談が9件ありました。生活と健康を守る会などで対応していくことになりました。医療・健康相談にもたくさんの方が足を止めていました。

閉会式で副実行委員長の大滝区労連議長（社保協会長）は、「物価高騰のなか、生活困窮が広がっている。本来、こうした支援は本来行政がやるべきだが、私たちの取り組みが行政を動かしていくことになる。支援の輪を広げていこう」とあいさつ。

当日は約100人のボランティアが運営にあたり、会場カンパもたくさん寄せられました。（大滝）

西武革新懇 ドキュメンタリー「前夜」がやってきた



西武革新懇は、12月9日、清瀬市内で、DVDドキュメンタリー『前夜』がやってきた』を上映し、湯本雅典監督の講演会を行いました。

2017年にわずか2か月のスピード審議で強行可決・成立した共謀罪法。高市政権下で「スパイ防止法」が取りざたされる中、タイムリーな企画となりました。

国会で「スパイ防止法」が提案され、自民・国民・維新・参政が競い合っています。法律の名前を聞いただけでは大抵の人は「自分はスパイなんかに関係ない」と考えそうですが、共謀罪もスパイ防止法も反対世

論を排除するのが狙いです。参政党の神谷代表は、「公務員について極端な思想の人たちは辞めてもらわないといけません。これを洗い出すのがスパイ防止法だ」と発言し、治安維持法の復活を狙っています。いま軍事費GDP（国民総生産）比2%、敵基地攻撃能力保有、基地強化・ミサイル配備、非核三原則の見直し、台湾有事発言など戦前回帰のような時代だからこそ、考える素材として映画を鑑賞しました。

感想として、「事の本質、事実を知らせることの重要性が今ほど問われているときはないと感じました。テレビ報道がなかなか真実を伝えない中で、私たちひとりひとりが地道に周りの人たちに話しかけていくことが必要です。高市発言の危険性を多くの人に知らせ、世論で包囲し撤回させること以外の解決策はありません」「高市首相になって軍事一辺倒で、タカ派の本分が危ないくらい出ている。このまま国民をどこに連れていくのかとても心配です。金権腐敗問題で与党を過半数割れに追い込んだのに、『そんなことより』という言葉で分かるように、一つも反省していない政権だと改めて感じています」などがありました。。